

## アマシードガム

### 1. 食品添加物名

アマシードガム（アマの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。）

### 2. 基原、製法、本質

アマ科アマ（*Linum usitatissimum* LINNE）の種子の胚乳部分より、室温時～温時水又は含水アルコールで抽出して得られたものである。主成分は多糖類である。

### 3. 主な用途

増粘安定剤

### 4. 安全性試験成績の概要

#### （1）反復投与試験

F344系ラットに被験物質100、300、1000mg/kgの用量で強制経口投与し、90日間反復投与試験を行った。その結果、動物の死亡は認められず、一般状態、摂餌量、眼科学的検査、尿検査、血液学的検査、血液生化学的検査、器官重量、肉眼的及び病理組織学的検査のいずれの検査においても、被験物質に起因すると考えられる変化は認められなかった。

体重では、雌雄とも1000mg/kg群で軽度の増加抑制がみられた。

以上の結果より本剤の無毒性量は雌雄とも300mg/kgと考えられる。<sup>1)</sup>

#### （2）遺伝毒性試験

ネズミチフス菌（*Salmonella typhimurium* TA98、TA100、TA1535、TA1537、WP2uvrA/pKM101）を用いた復帰突然変異試験は、5mg/plate

まで試験されており、代謝活性化の有無にかかわらず陰性であった。<sup>2)</sup>

哺乳類培養細胞（CHL/IU）を用いて、最高用量5mg/mLまでの染色体異常試験を行った結果、短時間処理法、連続処理法のいずれにおいて

も染色体異常の誘発は認められなかった。<sup>3)</sup>

マウス（ddy系雄、7週齢）の末消血を用いた小核試験は、オリーブ油にけん濁したアマシードガム2000mg/kg（10ml/kg）×2まで試験され

ており、いずれの用量においても小核の誘発は認められない。<sup>4)</sup>

以上から、アマシードガムには遺伝毒性はないと判断した。

#### （引用文献）

1. 小野 宏：平成15年度既存添加物の安全性に関する試験、財団法人食品薬品安全センター
2. 児嶋昭徳：平成13年度食品添加物規格基準作成等の試験検査、名古屋市衛生研究所
3. 望月信彦：平成13年度食品添加物規格基準作成等の試験検査、財団法人食品農医薬品安全性評価センター
4. 本間正充：厚生科学研究費補助金、国立医薬品食品衛生研究所